

東京・保倉秋葉会の活動報告

東京・保倉秋葉会 会長 岩野 靖

東京・保倉秋葉会は昭和四十九年八月ふるさとで行われた「ふるさと祭り」の際、関東地域等に居住する旧保倉村出身者の会の創立を合意。

これを受け、故郷の保倉地区振興協議会は、関東地域等居住者四五〇人に通知一八人が保倉秋葉会に入会、同年十一月協議会役員等が上京、都内で創立総会を開催。保倉地区振興協議会（本部）の関東支部を承認。

五十一年五月第二回総会（川崎市）で本部からの分離を承認。保倉村象徴の山「秋葉山」を取り、保倉秋葉会と決定。

平成二十年五月第三十四回総会（都内）を開催。三十四年間の活動状況は会則の目的に照らし会員総合の親睦、ふるさととの交流等を目的に次の事業を行ってき

・会員の名簿作成

・母校の備品整備一三〇万円と図書備品寄贈

・学校等公共建物竣工式出席

・会長退任感謝状授与

・旅行

・温泉地で総会・親睦会開催等

総会・親睦会は、協議会役員や地元選出市会議員等と、ふるさとの特産物を食べ、名酒を酌み交わせ、談笑、カラオケ

大会、踊り等盛大に繰り広げ、最後に校歌を斉唱し散会が恒例。

さて、故郷も、大島・保倉・旭の三村合併、そして新潟県下三番目の大都市、上

越市へと変貌していく中で、立派な道路整備とカラフルな建物や家々の改築等、昔のイメージがすっかり様変わりした。

故郷への意識も希薄になってきている感がある。

このような現象を反映してか、秋葉会も若者の不参加と会員の高齢化と相まって、年々出席者が少なくなってきた。

故郷の都市化傾向が一層進行する中で、人間同士や隣近所の付き合いも希薄になっているといわれている。

そんな中でも、誰にもふるさとがある限り、故郷との交流が益々必要になってきているのではないかと、そう考えると、秋葉会ふるさと上越ネットワーク等の果たす役割は益々重要になってこようというもの。

故郷の振興のため、これからも、会員の増加や事業の充実等に努めて行きたい。

入会方法、会則などのお問い合わせは、〇三・一三四七四・五二

保倉秋葉会第32回定期総会



保倉秋葉会 32 回総会に出席された方々